

## 北朝鮮の非核化 韓国は米国と歩調を合わせよ

2019/04/13

北朝鮮が完全な非核化に踏み出すよう、制裁圧力を維持しながら、米朝対話を促進する環境を整える。韓国はその重要性を認識し、米国と足並みを揃えねばならない。

トランプ米大統領と韓国の文在寅大統領が会談し、北朝鮮政策について意見交換した。

北朝鮮の金正恩朝鮮労働党委員長との対話を続ける方針では一致したが、トランプ氏は「急ぐと、適切なディール（取引）にならない」と慎重な姿勢を示した。経済制裁は緩めず、北朝鮮側の出方を見極める考えを強調した。

2月にハノイで行われた2回目の米朝首脳会談は、準備不足により、物別れに終わっている。3回目の会談で拙速を避けようとする立場は、妥当だと言えよう。

問題なのは、北朝鮮への対応について、米韓の溝が改めて浮き彫りになったことだ。

文氏は、段階的な非核化と制裁緩和などの見返りを組み合わせた「小さな取引」を積み上げて、対話を活性化させる構想を描く。

トランプ氏は、「現時点で我々は大きな取引を議論している。核兵器を取り除かなければならないということだ」と語り、韓国側の構想を事実上否定した。

開城工業団地や金剛山観光など、南北協力事業の再開に文氏が意欲を示していることについても、トランプ氏は「今は正しい時期ではない」と突き放した。

# NATO 70年 米欧の結束を固め直す時だ

2019/04/07

ロシアの軍事的脅威に加え、テロやサイバー攻撃、中国の軍拡など課題は山積している。米欧は同盟を巡るきしみを修復し、安全保障環境の悪化に対処しなければならない。

北大西洋条約機構（NATO）が創設70年に合わせた外相理事会をワシントンで開き、同盟の重要性を確認する声明を発表した。

当初計画されていた首脳レベルの会議は見送られた。トランプ米大統領のNATO批判を巡り、米欧の亀裂が広がっているためだ。憂慮すべき事態である。

ストルテンベルグNATO事務総長は、「米欧の協調関係を守らねばならない」と訴えた。相互不信への危機感がうかがえる。

トランプ氏は欧州のNATO加盟国が応分の国防費を支出せず、「米国に負担が集中している」と非難する。米国が共同防衛の責任を果たすかについては、明言を避ける。NATO離脱の可能性に言及した、との報道すらあった。

欧州側では、もはや米国には頼れないとして、独自の防衛体制を築くべきだという意見が出ている。仏独両国の首脳は「欧州軍」構想に前向きな考えだ。

現実には、米軍の情報・監視・偵察能力の支援なしに単独で作戦を遂行するのは困難だろう。ロシアの脅威に直面する東欧諸国に、仏独が安全を保証できるのか。米国を排除する欧州軍構想は、非現実的だと言わざるを得ない。

大切なのは、時代の変化に合わせて、NATOの機能を見直し、高めていくことである。

## メイ英首相窮地 「合意なき離脱」回避が第一だ

2019/04/04

英国が取り決めなしに欧州連合（EU）から抜ける「合意なき離脱」のリスクが高まっている。英政府・議会は最悪の事態の回避に向けて努力を尽くさねばならない。

離脱日が12日に迫る中、英政治は混迷を極めている。EUと合意した離脱協定案について、メイ首相は下院で3度にわたり採決にかけたが、いずれも否決された。

3回目の採決の際には、「可決されれば辞任する」と述べ、反対派の翻意を迫ったが、捨て身の戦術も功を奏さなかった。

下院で行われた代替策を探る投票でも、賛成が過半数に達する案はなかった。

このままでは、EUとの間で関税が突然復活する「合意なき離脱」が現実のものとなる。

英国とEUは万が一に備えて、一定の物流や人的往来を確保する準備を進めているが、製造業や市民生活への打撃は避けられまい。人やモノの流れの停滞による悪影響は、世界経済にも及ぶだろう。深刻な事態である。

メイ氏は窮地から脱するために、最大野党・労働党のコービン党首との会談に踏み出した。新たな離脱案の作成を目指し、下院で可決されれば、EUに離脱日の延期を求めるといふ。